



National Hospital Organization Kyushu Cancer Center

九州がんセンター

2024年 新年号

49

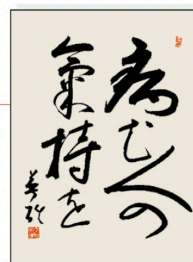
発行所 ● 福岡市南区野多目3丁目1-1 独立行政法人国立病院機構九州がんセンター | 編集発行 ● 広報部会 | 印刷 ● 株式会社 陽文社



福岡県・九州がんセンター「冬桜」 癒し憩い画像データベースより (<http://iyashi-ikoi.net/>)

基本理念

私たちは『病む人の気持ちを』そして『家族の気持ちを』 尊重し
温かく、思いやりのある、最良のがん医療をめざします



(初代院長 入江英雄書)

患者さんの権利

私たちは、患者さんの人権を尊重いたします。

患者さんは病名、病状、治療法、ケアなどについて納得のいく説明をお求めになることができます。

十分にご理解と同意をいただけるよう、私たちは最善の努力をいたします。

ロゴマーク

- 色の意味
青—生命、緑—博愛、ピンク—情熱、青—空、緑—緑あふれる自然、赤・ピンク—咲き誇る花を表わしています。
- 重ね合った3つの輪の意味
相互協力を表わしています。これには、輪(和)として
① 病院・臨床研究センター・事務部
② 医師・看護師・技師らの医療従事者
③ 日本・アジア・世界間の協調性
を表わしています。
- 月桂樹の葉の意味
栄光・勝利を表わしています。



日本医療機能評価機構
認定病院 (Ver.6)



Contents

巻頭言：“病む人に寄り添う” ポストコロナ時代を迎えた九州がんセンター……………2~3

地域でがん診療のレベルアップを！……………4~5

医療のアート(レンマ)とサイエンス(ロゴス)……………6~7

新薬ができるまで ~九州がんセンターにおける「治験」の取り組み~…………… 8

本格的な医師の働き方改革元年を迎えて… 9

地域医療従事者向けがん看護専門研修を開催しました！……………10

トピックス1：看護部からのお知らせ
国立病院総合医学会で全国優秀賞受賞！！……………11

外来担当医一覧表……………12

“病む人に寄り添う”

ポストコロナ時代を迎えた 九州がんセンター



国立病院機構九州がんセンター
院長 藤 也寸志



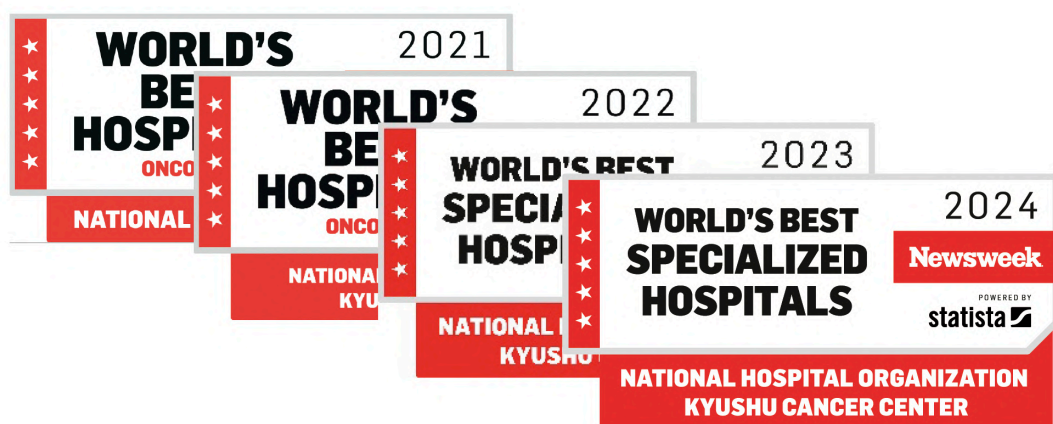
新年明けましておめでとうございます。
2024 年が、皆様にとって良き年となります様に
心よりお祈り申し上げます。

2020年初から猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が、2023年初頭の第8波を最後に収束し、世の中がウィズコロナ・ポストコロナの時代に入りました。以後、第9波の到来も危惧されましたが大きな波にはならず、COVID-19が話題に上ることも少なくなりました。ただ、九州がんセンターでは、入院前の全例PCR検査は止めたものの、ほぼ全てががん患者さんであることを考慮して、病院入口を1か所に限定したスタッフ配置によるトリアージ、入院患者さんの面会や外来付添い人数の制限などを続けています。今、新しい年を迎えて、インフルエンザの同時流行の状況をみながら、これらの制限も解除する方向で考えているところです。

COVID-19に翻弄されたこの数年間でしたが、がん医療は確実に進歩しています。九州がんセンターでは、ロボット支援下手術の導入、最新鋭放射線治療装置3台体制による高精度かつ迅速な放射線治療の継続、外来での抗がん剤治療（化学療法）の促進などを進めています。新しい治療法開発のための臨床試験や治験も数多く行っています。その一方で、スタッフ全員ががん患者さんやご家族に寄り添うチーム医療、高齢者総合機能評価の導入などによるライフステージを考慮しながらの患者さんの状況に応じた個別化治療、アピアランスケアなどの支持療法、患者さんやご家族の困りごとへのがん相談支援体制等をさらに充実させています。これらの活動は、全国のがん診療連携拠点病院の中でも高く評価されています。

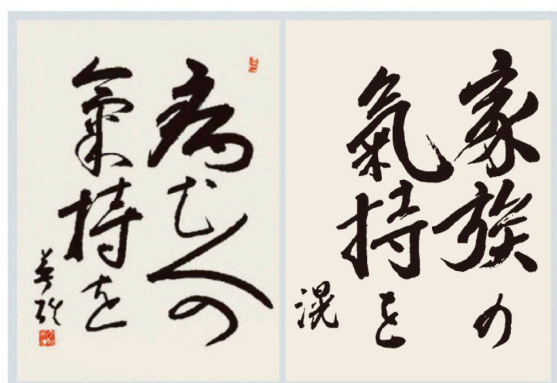
2015年から、『患者さんにもご家族にもスタッフにも優しい日本をリードするがん専門病院』になること、“世界トップレベルのがん専門病院”を目指すことを明確なビジョンとして掲げ、“全スタッフ間の垣根のないパートナーシップ”を醸成しワンチームとして診療に臨んできました。その成果の一端として、2021年にアメリカ Newsweek 誌が初めて選定した **World's Best Hospitals 2021** の

がん診療部門で、世界トップ 200 病院に選出され、さらに **2022 年～2024 年と 4 年連続**で選出されています。これは、九州がんセンターのスタッフ全員が皆様とともに行う『**がん医療の総合力**』の高さを示しているのだと思っています。今後は、さらに世界へ目を向けた活動を推進すること、それががん患者さんやご家族の満足に繋がるという意識を、全スタッフ間で高め続けていきます。



COVID-19 が収束したとしても、医療の世界では、まだまだ数多くの問題が残されています。その一つ一つを科学的・医学的に検証することも九州がんセンターの使命です。しかし、その原点として、私たちは、九州がんセンターの基本理念『**私たちは「病む人の気持ちを」、そして「家族の気持ちを」**尊重し、温かく、思いやりのある、

最良のがん医療をめざします。』を心に刻み、そして“**病む人に寄り添う**”という意味を常に考えながら、地域の医療介護従事者の皆様のご協力をいただきながら、“**全員で一人の患者さんを支える真のチーム医療**”を推進していきたいと思えます。本年も、皆様のご指導ご支援のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



地域でがん診療の レベルアップを！

副院長 森田 勝



新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

がん患者診療・ケアにおいては、すべての職種の医療者によるチーム医療が重要です。さらに、治療を行う専門病院のみならず、先生方をはじめとした医療・介護に関わる皆様で患者さんを“地域で支える”ことも極めて重要です。そのためには地域として診療・ケアのレベルを向上させるとともに、市民にがんについて正しく理解してもらうことも大切だと思います。

九州がんセンターでは、この様な思いから毎年、医療に関わる皆様を対象とした種々の講演会を企画するとともに、市民公開講座を行ってきました。2020年からは新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、中止せざるを得なかったり、それでも可能なものはWeb配信を利用し継続したりしたのもありました。幸い昨年2023年は感染に十分に注意しながら、これらの講演会をすべて集合開催することが出来ました。

1

第13回 病病・病診連携の会

5月10日、ホテルニューオータニ博多

地域の医療者の皆様と“顔の見える関係”を築くことを目的とした会で、147名（医師62名、歯科医師12名、看護師41名、MSW16名、他16名）の皆様にご参加いただきました。講演会では最新のがん診療について発表するとともに、“懇親の場”では直接、皆様と親睦を深めることが出来ました。今年も9月7日（土）に開催を予定しています。よろしくお願ひします。



『第13回 九州がんセンター病病・病診連携の会』

日時：令和5年5月20日(土) 14:30~17:00 (講演会開始：15:30)
場所：ホテルニューオータニ博多 4階 鶴の間 (減速通り1-1-2 092-714-1111)

懇親の場 14:30~15:20
当院職員と意見交換できる場を設けております。ご都合の良い時間にお立ち寄りください。

講演会 15:30~16:55

開会の挨拶 15:30~15:35
院長 藤 也寸志

第I部「九州がんセンターからの情報発信」 進行：消化管外科部長 山本 学

1. 当院におけるロボット支援下手術の現状 15:40~15:50
呼吸器腫瘍科医長 庄司 文裕
2. 最新の放射線治療—特に高精度放射線治療について— 15:50~16:00
放射線治療科医長 岡武 直信
3. 分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤を含めた化学療法法の進歩 16:00~16:15
臨床研究センター長/消化管・腫瘍内科部長 江崎 泰斗
4. 九州がんセンターの進むべき道 16:15~16:35
院長 藤 也寸志

第II部「意見交換」 16:35~16:55
進行：副院長 益田 宗幸

1. 医師会からのご挨拶
2. 質疑・応答 意見交換

開会の辞 副院長 森田 勝

2

第10回 市民公開講座

10月1日、エルガーラホール 同時Web配信

地域の皆様に「がんに関する正しい情報のもとに、前向きに生きてほしい」と願い、最新で役に立つ情報を提供しています。4年ぶりに開催できた今回は、「今日から役立つがんの知識」のテーマのもと、「がんとウイルス」、「がんロコモ」の講演を行い、293名の皆様にご参加いただきました。

第10回 今日から役立つがんの知識
2023年10月7日(土)
時間 午後2時～3時45分
場所 エルガーラホール 8階 大ホール
参加費 無料

Part1 がんとういす
① 肝炎を知って肝がんを防ごう～助けるがんを放置しない生き方～
② 子宮頸がんを人ごとだと思っていないですか？
③ 注意しないうつ病のしこり～ウイルスと中脳深部がんの謎
④ がんと新型コロナウイルス～コロナは、5臓器病巣になってもこれまで通り感染します！

Part2 がんに関係ないから大丈夫～がんロコモ対策～
① がん治療における動くことの重要性
② 骨折を予防する薬について
③ 栄養・食事のポイント
④ がんはロコモ対策の運動

第6回 医師向けがん最新情報講座
今おさえておきたい、がんの画像診断と放射線治療
令和5年 2月4日(土) 16:00～17:55
レゾラNTT夢天神ホール
福岡市中央区天神2-5-55 Tel:092-781-8888

1 がん治療の画像診断 Update
2 こんなに使える！PET検査
3 痛くない！体に優しい大腸検査「CTコログラフィ」
4 ここまで来た！がん放射線治療

第6回 医師向けがん最新情報講座

2月4日、レゾラNTT夢天神ホール

地域の先生のご要望に応じて始めた会です。“明日からの臨床に役立つ情報を”をモットーにプログラムを企画しています。今年は49名の先生方にご参加いただき、「今おさえておきたい、がんの画像診断と放射線治療」について各専門医が講演しました。今年は2月3日(土)、同会場にて「がん治療に新しい光を！治療法の最前線」をテーマに開催を予定しています。

4

第33回 がん患者のQOL推進事業講習会

12月2日、レゾラNTT夢天神ホール

前向きに“がんと共に生きる”ことを支えていくことを目的とし、33回を数える伝統ある講演会です。今回は「その人らしさを支えるアピアランスケア」をテーマとし、82名のメディカルスタッフの皆様にご参加いただきました。

第33回 がん患者のQOL推進事業講習会
その人らしさを支えるアピアランスケア
日時 2023年12月2日(土) 14:00～16:00
場所 レゾラNTT夢天神ホール
プログラム
14:00～14:05 開会の挨拶
14:05～15:50 講演
1. なぜ今、アピアランスケアがもてられるのか
2. がん薬物療法による皮膚障害とその対応
3. アピアランスケアにおける形成外科の役割
4. 早期乳がん治療に対するアピアランスケア(頭皮冷却による脱毛抑制)
5. その人らしさを支えるアピアランスケア
6. 福岡県のアピアランスケア事業
質疑応答

これらの演者は全て当院の職員で、できるだけ聴衆に理解しやすい発表とするために、病院幹部も加わり何度も予行を重ねています。このような活動が少しでも地域の

がん医療のレベルアップにつながり、がん患者さんやご家族を支えることにつながると信じて続けていきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

医療のアート(レンマ)とサイエンス(ロゴス)

副院長 益田 宗幸



新年あけましておめでとうございます。

九州大学で年一回、医学部の学生さんに講義をしています。毎回、医療はサイエンスだと思う人は手を上げてください?という質問をしています。ほぼすべての学生さんが手を上げます。言語や数値で合理的に物事や現象を説明することをサイエンスの定義だとします。だとすると、医療が対象とする人体の仕組み(心を含む)の中で、サイエンスで語るができるのは、ほんの一部に過ぎません。なぜ人間は生まれて死ぬの?心って何?といった、本質的な疑問に対して、医療は全く回答ができていません。つまり、我々医療者は、ほとんど未知の対象に対して、経験や倫理観に基づく感覚で医療行為をおこなっていることになります。これは、物をつくる、絵を描く、音楽を演奏するといった行為に近く、アートと呼んで良いかと思います。しかしながら、一医療者として、医療の本質がアートであることがおろそかにされる現況に、常々危惧を抱いてきました。

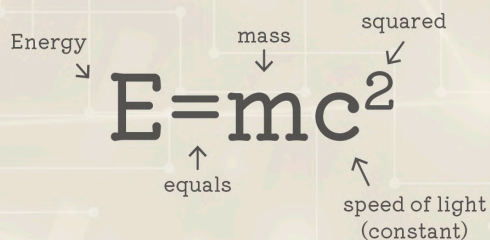
医学部の学生さんが医療をサイエンスと信じる要因の一つは、現代医療にはいわゆるエビデンスに支えられた部分があるからとおもわれます。しかしながら、基本的にエビデンス

の多くは、物事を限定的な側面から見た確率論です。1000人の特定条件を満たすがん患者でAとBの治療法を比較して、Aのほうが患者の生存期間の中央値が、例えば2ヶ月長いと確率的に長いと証明された場合、Aの治療法が優れているエビデンスがあるということになり、一流雑誌に掲載され、ガイドラインで標準治療として推奨されます。しかしながら、この差は厳密な条件でのみ有効であり、対象集団が異なれば逆の結果になるリスクがあることは強調されません。また、この差が本当に患者の利益



になっているのかも問題にされません。本来のエビデンスベースドメディシン (EBM) の基本理念は、医療者の経験や熟練度、患者の価値観や希望といったアートな部分を、サイエンスに基づくデータで補うことを目的にしたものです。アートが主でサイエンスが従の関係です。しかしながら、昨今では、この主従関係が逆転して、ガイドライン盲信教といった状況を生み出しています。

多様で複雑(カオス)でありながら美しく調和的に発展する宇宙の背後に統一的で合理的な原理があるはずと考えたギリシャ人は、これをロゴスと呼びました。物事を時間軸に沿って線形的に整理・配置して理解するロゴスの知性は、その後のサイエンス発展の原動力となりました。18世紀の数学者ラプラスは、すべての物質の位置と運動量を知り得る悪魔的存在(ラプラスの悪魔)を想定しました。ラプラスはニュートン力学的により、森羅万象を機械論的に記述できると考えていたので、神の言葉としての究極のロゴスを解き明かしたと盲信していたようです。このロゴス至上主義に、現代のガイドライン盲信教と通じるものを感じます。しかしながら、ニュートン力学で記述が可能なのは極めて限定的な世界です。その後の熱力学・量子力学により、ロゴス的な考え方だけでは世界を記述することができないことは明らかに



なっています。

サイエンスを語る体系的知性がロゴスであるとする、アートを語る体系的知性のようなも

のがないかと常々思ってきました。これに対して、宗教学者の中沢新一さんが最近レンマというタームを提唱しています。直観により物事をまるごと把握する知性をさします。ギリシャ時代からあった考え方のようなのですが、その後ロゴスばかりが脚光を浴びて忘れられていたようです。しかしながら、少し考えればわかるように、ノーベル賞に値するような本当に創発的なアイデアは、感覚的なひらめきを数値や言語で表すことにより生まれます。ロゴスの知性の一つの到達点であるAIが、人の知能を上回る可能性を危惧する向きがあります。しかしながら、私は絶対に有り得ないと思っています。なぜならAIはレンマ的な思考ができないからです。言うまでもなく、医療に本当に求められるのもレンマに基づくアートの行為です。さじ加減の妙に基づく仁術です。さて問題は、どうやってレンマ的医学教育を行うかです。

\ Pick up! /



「レナマ学」

中沢 新一 著・講談社

しんやく 新薬ができるまで

九州がんセンターにおける 「治験」の取り組み

臨床研究センター長
江崎 泰斗



患者さん達は常に新薬の登場を待ち望んでいます。新聞やテレビ、ネットのニュースでがんの新薬研究が取り上げられると、次の外来では自分にもあの治療は使えないのか、これで自分のがんは治るのではないかと大きな期待を抱いて私達に尋ねて来ます。

今回は「治験」について取り上げたいと思います。

「治験」とは、「薬の候補」を市販の「くすり」として認めてもらうために、製薬会社が、国の機関（PMDA医薬品機構）の審査を受けた上で、対象となる患者さんに半ばボランティアとして参加していただき、効果や安全性を調べる試験のことをさします。抗がん薬の場合は強い毒性がみられることがあるため、一般の健常者は対象となりません。

抗がん薬の治験の流れは下図の通りです。第Ⅲ相試験で標準治療と比べて効果や安全性がすぐれていることが

確認されたのち、厚生労働省により承認され、製薬会社は「くすり」を発売することができるようになります。

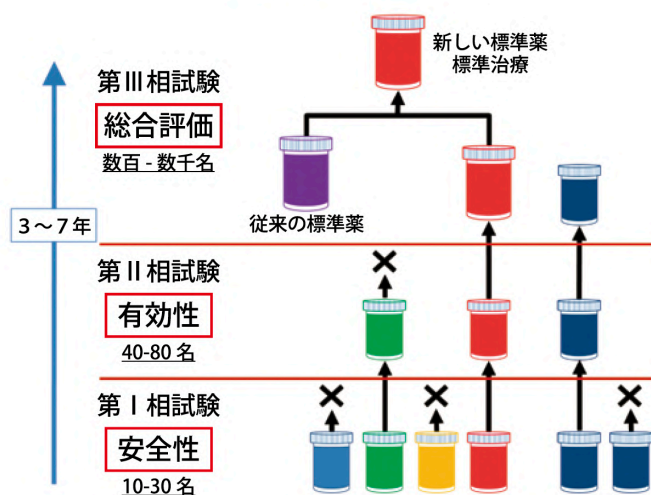
九州がんセンターでは、がんの専門病院として多くのがん種で様々な抗がん薬の「治験」を行っています。毎年30～40の新しい治験を開始し、継続して実施している治験の数は160～180前後に上ります。より実臨床に近い第Ⅱ、第Ⅲ相試験が中心ですが、まだ臨床データの少ない第Ⅰ相試験や、患者さんの数が少なく製薬会社の利益につながらない希少がんに対する治験（医師主導治験）にも取り組んでいます。半数以上が国際共同治験であり欧米と同時に開発が進みます。これにより日本人だけ「くすり」の供給が遅れるというドラッグラグの解消が図られています。

当院は全国の国立病院機構140施設の中ではトップの治験実績であり、がんの分野では一般病院・大学を含めて大阪以西で最大の施設の一つとなっています。治験推進室・臨床試験推進室に看護師、薬剤師、事務など約40名の専任スタッフを配属し、治験・臨床研究をサポートしています。

当院の理念である「病む人の気持ちを」という原点に立ち返る時、「治験」は、「目の前の」患者さんにいち早く将来有望となる可能性のある治療を届けるだけでなく、「未来の」同じがん患者さんのための新薬開発・研究でもあります。当院の大きな使命と考え、スタッフ一同、力を注いでいます。

標準治療（現在の最善の治療）・治験を含めた最新のがん医療を希望される患者さんに、九州がんセンターをご紹介しますと幸いです。

治験の流れ



本格的な 医師の働き方改革元年 を迎えて

2024

統括診療部長 / 泌尿器・後腹膜腫瘍科部長

中村 元信



新年、あけまして
おめでとうございます。

本年は、労働基準法・労働安全衛生法に基づく医師の働き方改革に関しての省令・告示が4月1日から施行され、いよいよ本格的な医師の働き方改革元年を迎えます。

医療がますます高度に複雑化している現在の状況において、医療の質を担保しつつ働き方改革を進めていくのは並大抵のことではありません。働き方改革を実現する仕組み作りも重要ですが、この困難な改革のためにはわれわれ医師の抜本的な意識改革が欠かせません。これは若い医師よりもむしろ、私を含めた経験年数が多い医師ほど難しいように感じています。医師は忙しいのが当たり前、帰りが遅く休日も出勤するのが当たり前といった生活を長年送ってきた中堅以上の医師の意識をいかに根本から変えることができるかが、組織としての働き方改革の成否の大きな鍵の一つであろうと考えています。

当院では働き方改革に対する医師の意識を変えるべく、2019年より様々な取り組みを進めてきました。時間外労働の削減のために、質の高い医療の標準化を基本とした休日当番医制、複数主治医制（チーム医療体制）を

推進・実現しています。また、医療スタッフ全員が忙しい中で医師の業務削減のためにできるタスクシフトは限られています、それでも持ち前のがんセンターのチームワークの良さで様々なタスクシフトが進んでいます。

働き方改革の様々な課題の中で、私が最も難しい課題の一つと感じているのが若手医師の教育です。臨床研究活動や自主的な学会発表、論文作成は診療外業務とされていますが、上司が指示すればそれらは業務として勤務時間に計上されます。今後は自己研鑽としてそれらに意欲的に取り組む医師とそうでない医師とで、今まで以上に大きな差がつくように思います。また、様々な業種で時短が求められている現在、これは医師に限ったことではありませんが、試験で制限時間ぎりぎり90点をとるよりも、制限時間の半分で70点

をとる人材の方が能力を発揮しやすい世の中なのかもしれません（医療の場合は70点でよいのか？との問題はありますが……）。

医療の質の維持・向上に人材の確保は欠かせませんが、非効率な長時間労働が求められる職場に優れた人材が集まるはずもありません。今後九州がんセンターが日本をリードするがん専門病院であり続けるためには、外から見てもわかりやすい「働き方が改革された職場」であることが必要です。まだ取り組むべき課題は多く残されていますが、九州がんセンターがそのような職場であるように、そして「医師の働き方改革元年」への取り組みがさらなる医療の質の向上の契機、推進力となるように今後も改革を進めて参ります。

本年も引き続き、なにとぞよろしくお願いいたします。

九州がんセンターにおける医師の働き方改革への取り組み

2019	・ 時間外の患者 IC 原則禁止 ・ 当直医による看取りの代行
2020	・ DA へのタスクシフト強化（退院サマリ下書き、リハビリ指示書作成など） ・ 看護師による抗がん薬点滴ルート確保
2021	・ 休日当番医制、複数主治医制の導入指示 ・ IC カードリーダー導入（打刻の意識付け）
2022	・ 勤務時間管理システム導入（12月） ・ 休日当番医制、複数主治医制の強化指導
2023	・ フレックス出勤の導入 ・ 勤務時間管理システムデータに基づく診療科、医師への教育指導

* DA：医師事務作業補助者

地域医療従事者向け がん看護専門研修を 開催しました！

看護部長 赤星 誠美



新年あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願い致します。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行しましたが、コロナ禍の3年間はがん看護研修の機会や看護師同士の交流の場も少なくなっていました。そのため、近隣のがん看護に従事する看護師から臨床の課題解決をしていくためのスキルを学びたいという声が数多くありました。そこで、都道府県がん診療連携拠点病院としての役割を果たすために2023年10月～11月に「地域医療従事者向けがん看護専門研修」を開催致しました。

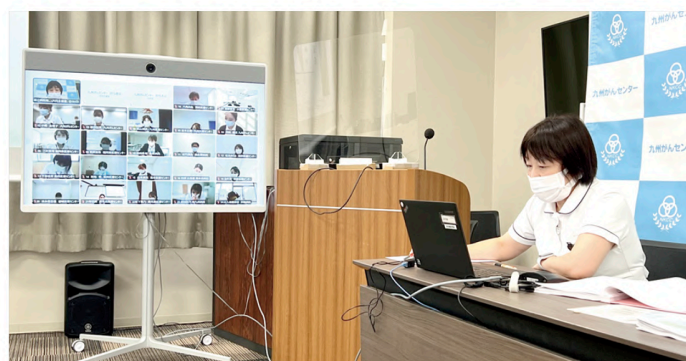
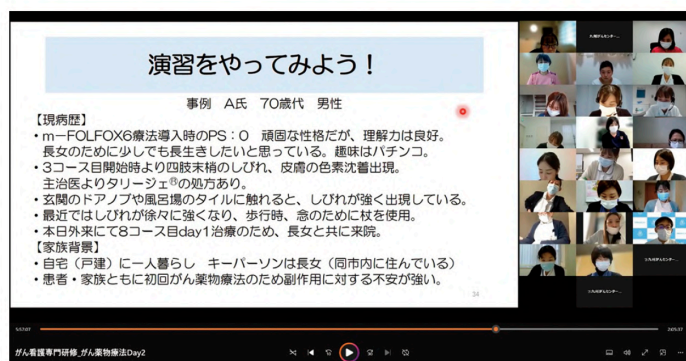
研修は、福岡県内のがん看護の質向上を目指す目的で県内施設を対象とし、特に要望が多かった「緩和ケア」、「がん薬物療法看護」の2つのコースを設けました。研修には、福岡県内のがん診療連携拠点病院及び緩和ケア病床、化学療法センターを有する病院、訪問看護ステーションに勤務する

看護師から「緩和ケアコース研修」に22名、「がん薬物療法看護コース研修」に18名の方が参加して頂きました。研修講師は、当院のがん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師の11名が担当し、研修生が参加しやすいようオンラインを使って行いました。

2つの研修ともに2日間の日程で実施し、がん看護における基本的知識が習得できることを目標に緩和ケアコースでは「緩和ケアに関する基礎知識」、「症状マネジメントと援助技術」、「コミュニケーション」、「緩和ケア領域における倫理的課題」等、がん薬物療法看護コースでは、「がん薬物療法概論」、「抗がん薬の安全な取り扱い」、「がん薬物療法による副作用のアセスメントとセルフケア支援」等を研修内容としました。研修方法は講義だけでなく、

研修生同士の意見交換が活発に行えるよう講義と演習を組み合わせた形態をとりました。研修終了後のアンケートでは「経験のみに頼るのではなく、根拠に基づいたがん看護を行うことの大切さを実感した」「演習では、様々な施設の方と意見交換することで、視野を広げることができた」「地域で働く看護師として、病院と自宅を繋ぐ架け橋になれるよう頑張りたい」という感想を多く頂きました。

今回の研修はオンラインの開催でしたが、研修生の方々は大変熱心に参加され、がん看護に対する熱い思いが伝わってきました。これからも看護部では、都道府県がん診療連携拠点病院として、引き続き地域のがん看護の質向上に向けて様々な貢献していきたいと思っております。今後とも、ご指導の程よろしくお願い致します。



国立病院総合医学会で全国優秀賞受賞！！



副看護師長 梶田 志帆



藤院長と記念撮影



発表中の様子



表彰式



発表資料

「退院後電話訪問」の活用
2019年より1つの病棟で、電話による「退院後電話訪問」が行われていた。本病棟では、病棟看護師による定期的なフォローアップが行われていた。

「オンライン看護相談」「オンライン訪問看護」の活用
2022年より「オンライン看護相談」「オンライン訪問看護」のシステムを導入し、一歩進んだ患者ニーズへの取り組みを進めています。

患者満足度調査結果より
2022年
すべての患者様に「退院後電話訪問」を行っていただくことで、退院後の不安を解消し、安心して生活ができるようサポートしています。

今後の課題
現在、病棟看護師を中心に「退院後電話訪問」を実施していますが、病棟看護師の業務負担、病棟部門との連携強化が課題となっています。

国立病院機構では、「できることから始めよう!」をスローガンに医療サービス、経営改善、医療安全というテーマについて、創意工夫を凝らした取り組みを行っています。看護部の副師長研究会・患者家族支援グループが2018年より取り組んできた活動「あなたの声が聞きたい～電話訪問でつながる安心の輪～」が九州グループ「最優秀賞」国立病院総合医学会では「全国優秀賞」を受賞することができました。

当院はがん専門病院であり、がんと診断後、どのステージにおいても住み慣れた場所で安心した生活ができるよう支援しています。そこで、患者さんへのフォローアップを目的に、2019年より病棟看護師による「退院後電話訪問」のシステムを導入しました。患者さんからは、「看護師さんの声を聴いて安心した」等の嬉しい声を多く頂いています。また、医師とも連携を図り、必要に応じて外来受診時期を早めるなどの対応に繋がっています。さらに、2022年より「オンライン看護相談」、認定看護師による「オンライン訪問看護」のシステムを導入し、一歩進んだ患者ニーズへの取り組みを進めています。

今後も、九州がんセンター看護部では、病院の基本理念である「病む人の気持ち」「家族の気持ち」に寄り添いながら、切れ目のない質の高い看護の提供できるよう取り組みを発展させていきたいと思っています。

外来担当医一覧表

休診 土・日・祝日
年末年始

受付
時間

午前 8:30 ~ 11:00

2024年1月1日より

外来	診療科	月	火	水	木	金	
A	頭頸科	<休診日>	藤 賢史* / 檜垣 (新患) 本郷 / 樽谷 / 大森 (再来)	<休診日>	益田 (新患) 力丸 / 榊 (再来)	檜垣 (新患) 藤 (賢)* / 黒木 / 木田 (再来)	
	小児・思春期腫瘍科	中山 秀樹* / 加藤	野口 / 東矢	中山*	野口 / 東矢	中山* / 加藤	
	泌尿器・後腹膜腫瘍科	根岸 (新患)	古林 (新患) 中村 元信* / 根岸 (再来) 古林 (再来・午後)	中村 (元)* (新患)	中村 (元)* (新患) 根岸 / 古林 (再来)	根岸 (新患・第1,3,5) 古林 (新患・第2,4)	
	血液・細胞治療科	崔 / 宮下 (新患・再来) 樋口 / 平田 (再来)	宮下 (新患・再来) 崔 / 立川 / 樋口 (再来)	立川 (新患・再来) 末廣 陽子* / 崔 宇都宮 (渉) (再来)	崔 (新患・再来) 末廣* / 宮下 / 平田 宇都宮 (渉) (再来)	立川 (新患・再来) 崔 / 宮下 / 樋口 (再来)	
B	呼吸器腫瘍科	山口 正史* / 庄司小 齊 / 伊藤 (新患・再来)	豊澤 (再来) / 瀬戸 (セカンドオペニオン)	山口 (正)* / 小齊 藤下 / 豊澤 (新患・再来)	豊澤 (再来)	庄司 / 伊藤 / 藤下 (新患・再来)	
	消化管・腫瘍内科	江崎 泰斗* (新患:第1~4週、再来) 西嶋 (新患:第5週) 有水 (再来) 奥村 (再来:午後のみ)	江崎* (新患) 薦田 (再来) 奥村 (再来) 西嶋 (再来)	江崎* (再来) 薦田 (新患) 有水 (再来) 松村 (再来)	薦田 (再来) 奥村 (再来) 有水 (新患)	江崎* (再来) 薦田 (再来) 奥村 (新患)	
	老年腫瘍科 院内紹介のみ	西嶋 智洋* (第1,3週)	<休診日>	西嶋*	西嶋*	西嶋*	
	消化管外科	森田 (勝)	杉山 / 笠木	当番医 (新患) / 岩永	古賀 (直)	木村 和恵*	
	消化器・肝胆膵内科	肝臓	田中 新患<午後のみ>	杉本 理恵* / 森田 (祐) 新患<午後のみ>	森田 (祐) 新患<午後のみ>	杉本* 新患<午後のみ>	田中 新患<午後のみ>
		膵臓	久野 / 脇岡	李 (再来・新患)	久野 / 脇岡	李 新患 (午前のみ)	久野 / 李
	肝胆膵外科	<休診日>	<休診日>	<休診日>	杉町 圭史* (新患・再来) 冨野	杉町* (新患) 島垣	
	歯科口腔外科 院内紹介のみ	福元 俊輔* / 志渡澤	福元* / 志渡澤	福元* / 志渡澤	福元* / 志渡澤	福元* / 志渡澤	
	がん遺伝外来 / 消化管二次検診(火・木)	織田 信弥	織田	織田	織田	織田	
	腫瘍循環器科 院内紹介のみ	河野 美穂子*	河野*	河野*	河野*	河野*	
消化管・内視鏡科 (消化管二次検診)	村木	<休診日>	宮坂 光俊*2	<休診日>	宮坂*2 (午後:第1,3,5) 村木 (午後:第2,4)		
糖尿病・代謝科 院内紹介のみ	工藤 佳奈* / 池田 紀子	工藤* / 池田	工藤* / 池田	工藤* / 池田	工藤* / 池田		
J	婦人科	岡留 雅夫* / 園田 / 二尾	<休診日>	有吉 / 村上 / 交代制	園田 / 山口 (真) / 長山	<休診日>	
	乳腺科	徳永 えり子* / 田尻 古閑 / 秋吉 / 厚井 川崎 / 中村 (吉)	徳永* / 秋吉 古閑 / 厚井 / 川崎 田尻 / 中村 (吉)	徳永* / 古閑 中村 (吉)	<休診日>	厚井 古閑 / 秋吉 / 川崎 田尻 / 中村 (吉)	
	形成外科	<休診日>	福島 淳一* / 嶋本 (涼) (新患・再来)	<休診日>	福島* / 嶋本 (涼) (再来)	<休診日>	
	皮膚腫瘍科	内 博史*	<休診日>	内*	<休診日>	内*	
	整形外科 / 骨軟部腫瘍科	骨転移・がん骨粗鬆症外来 ※1	横山 / 薛 宇孝*	<休診日>	<休診日>	薛* / 横山	
	緩和ケア外来 サイコoncロジー科 / 緩和治療科	大島 彰*	三浦 (サイコoncロジー科)	大谷 (緩和治療科)	大島* / 三浦 / 嶋本 正弥*	嶋本 (正)*	
E	放射線治療	白川 / 國武 直信*	阿部 / 白川	國武* / 平峯	平峯 / 阿部	交代制 (再来)	

* 各診療科責任者 * 2 診療科代表者

院長：藤 也寸志		
副院長 森田 勝	副院長 益田 宗幸	臨床研究 センター長 江崎 泰斗
統括診療部長：中村 元信		

* 各診療科責任者

消化管・腫瘍内科：江崎 泰斗	形成外科：福島 淳一	腫瘍循環器科：河野美穂子
緩和治療科：嶋本 正弥	呼吸器腫瘍科：山口 正史	歯科口腔外科：福元 俊輔
サイコoncロジー科：大島 彰	小児・思春期腫瘍科：中山 秀樹	放射線治療科：國武 直信
消化器・肝胆膵内科：杉本 理恵	乳腺科：徳永えり子	皮膚腫瘍科：内 博史
消化管外科：木村 和恵	婦人科：岡留 雅夫	老年腫瘍科：西嶋 智洋
肝胆膵外科：杉町 圭史	泌尿器・後腹膜腫瘍科：中村 元信	糖尿病・代謝科：工藤 佳奈
消化管・内視鏡科：宮坂 光俊	血液・細胞治療科：末廣 陽子	
頭頸科：藤 賢史	整形外科：薛 宇孝	

- ※ 初めて診察を受けられる方は、現在受診しておられる病院や医院（かかりつけ医）からの紹介状（診療情報提供書）をお持ちください。また、「がん検診（一次検診）等で精密検査が必要とされた方も、検診機関や保健所などからの紹介状（精密検査依頼書）をお持ちください。
- ※ 当院では「がんの一次検診」は行っておりません。がんの一次検診を希望される方はがん（一次）検診施設を受診してください。（がんの一次検診施設については相談支援センター [TEL: 092-541-8100] にお問合せください）

- 1 【予約制の診療科】消化器・肝胆膵内科、整形外科、骨転移・がん骨粗鬆症外来、消化管・内視鏡科、形成外科、緩和ケア外来、放射線治療科、乳腺科、婦人科
- 2 【院外からの紹介不可、院内紹介に限る】老年腫瘍科、歯科口腔外科、腫瘍循環器科、糖尿病・代謝科
- 3 放射線治療科への紹介は、直接、放射線治療医が対応します。代表 092-541-3231 に連絡し、予約希望とお伝えください。
- 4 予約制ではない診療科についても、医療機関を通して初診の予約を取っていただくことをお勧めします。
- 5 消化器・肝胆膵内科の肝臓内科の新患は予約制で 11:30 ~ 14:30（月曜日～金曜日）になります。
- 6 消化管・内視鏡科の金曜日午後の新患は予約制で受付は 13:00 ~ 14:00 です。



独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

〒811-1395 福岡市南区野多目3丁目1-1
TEL: (代表①) 092-541-3231 (代表②) 092-557-6100
FAX: 092-551-4585
URL: <https://kyushu-cc.hosp.go.jp/>

地域医療連携室

TEL: 092-542-8532
FAX: 092-541-3390